

# 平成25年度 赤穂市学校評価 外部評価報告書

学校名 赤穂市立赤穂小学校

## 1 本年度の学校経営方針

- 1 ものごとに意欲的に取り組み、確かな学力を身に付ける。
- 2 一人一人の個性を尊重し、自他を大切にすることを培う。
  - ① 基礎基本の確実な定着を図り、創造性や個性を伸ばす教育を推進する。
  - ② 時代の変化に対応した教育活動を総合的に展開する。
  - ③ 主体的な学びを尊重し、生涯学習社会を見据えた学校づくりを行う。
  - ④ 人権尊重の精神を基盤に豊かな人間性の育成をめざす。
  - ⑤ 道徳教育・体験活動を充実し、「豊かな心」を育む。
  - ⑥ 震災に学び、たくましく生きる力を育む。
  - ⑦ 学校・家庭・地域社会との連携と融合を図る。
  - ⑧ 社会の変化に対応できる指導者としての資質能力の向上を図る。

## 2 本年度の学校重点目標

- 学習指導要領を踏まえた教育課程の着実な実施
- 「生きる力」を育む魅力ある学校づくりの推進
- 人権教育の徹底
- 道徳教育の充実
- 心の通い合う授業を基盤とした生徒指導の充実
- 特別支援教育の充実
- 地域と連携した福祉教育・ボランティア活動の推進
- 環境教育の推進
- 国際理解教育(外国語活動)の充実
- 情報教育の充実
- 食育の推進・健康教育の充実
- 「兵庫の防災教育」の充実
- 学校・家庭・地域との連携
- 教職員の資質、指導力の向上を図るための研修の充実

## 総合的な学校関係者評価

本年度も昨年度に引き続き、保護者アンケート、さらには児童アンケートを実施し、それらを踏まえて、学校改善を図っていくとする姿勢は評価できる。

保護者アンケートの回収率が98.9%と昨年度同様高く、保護者への学校教育への関心、期待度が高いことが伺われる。特に「学校が楽しい」「授業が分かる」という項目が、保護者アンケート、児童アンケートともに90%以上に達しており、本校の教育活動は良好と言える。その要因として、(1)基礎基本の定着のために、個別指導や補充的な学習など、個に応じた指導が適切に行われている。(2)赤穂の地域教材を活用して、環境体験事業(雄鷹台山での活動)や千種川・加里屋川等の社会科・理科・総合的な学習の時間での体験的な学習や問題解決的な学習が適切に行われている。(3)共感的理解を必要とする児童に対応するために「授業のユニバーサルデザイン」や「学びの共同体」にもとづく授業研究等に取り組み、発問、板書、指名など、各教員の指導性が各教科の授業において適切に発揮されるようにしている等の取組が一定の成果を挙げている。今後も継続することが大切である。

特に「子どもは朝食を毎日食べている」という項目では97%と高く、「早寝・早起き・朝ごはん」運動における朝食の大切さが家庭で定着してきたものと考えられる。今後とも児童・保護者の学校への要望を把握しながら、協力して適切に対応することが必要である。

本年度も「第三者委員会提言」を受けて設定した「いじめ対応」の項目については、昨年度よりAB評価が増えていることから保護者は一定の評価をしており、いじめ・不登校にかかわる件数が0であることは高く評価できる。こうした要因としては、(1)県教委「いじめ対応マニュアル」「第三者委員会提言」に基づいて、学校の教職員全体で児童の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されている。(2)本校「いじめチェックリスト」や常に子ども達に寄り添うことによって、児童の問題行動の状況を共有し、適切に対処できている。(3)「保護者アンケート」や日頃の連絡によって、保護者と連携協力して、基本的な生活習慣を身につけた児童を育成するための指導を行っている等の理由が考えられる。

また、今年度も教職員の自己評価を学期毎に実施することは、次学期への目標や課題が明確になり、教職員の意識化により取組の改善が図られている。今後も目標の設定や具体的方策の検討、評価後の改善の手立て等、評価活動を全職員で行い、さらなる学校改善と教育活動の活性化につないでいくことができるよう取組を継続してほしい。

## 3 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (重点目標)	評価項目 (学校・教師の取組)	評価資料	達成状況	改善の方策
教育課程 の着実な 実施	項目 指標 基礎基本の定着のために指導方法の工夫や改善に努めているか。 15分間モジュールを計画的に進める。赤穂ドリルの活用。	教職員アンケート 3. 94	A	各教科・領域の特質をいかした「指導と評価の一体化」に基づいた授業研究を継続していくことが大切である。児童に各教科の授業やモジュールで基礎基本の学力を身につけさせる。その基礎基本を土台として、各自が興味・関心に基づいた探求活動を行う「問題解決的な学習」を展開させていくことを推進していく。
	項目 指標 問題解決的な学習に取り組んでいるか。 興味・関心を持ち、課題を見つけ、主体的な学習に取り組む。	教職員アンケート 3. 76		
	項目 指標 指導と評価の一体化を図っているか。 明確な目標・多様な評価等により一人一人を伸ばす。	教職員アンケート 3. 94		

## 学校関係者評価

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	学力については、知識の量のみでとらえるのではなく、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることはもとより、それにとどまることなく、自ら学び、自ら考える力等を身につける「問題解決的な学習」を進めることによって、「生きる力」がはぐくまれているようにする必要がある。こうした学習を進めるためには、強制的に特定の教科・領域を研修させるのではなく、各教職員のやる気を引き出すために、主体的な研修体制を確立することにより、子ども達に尊敬される教育者としての専門性を向上させる。

3 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

観点 (重点目標)	評価項目(学校・教師の取組) 評価指標および目標値(期待される姿)	評価資料	達成状況	改善の方策
生きる力を育む魅力ある学校づくり	項目 指標 環境整備を年間を通して意図的・計画的に行っているか。 美しい学校, 心やすらぐ学習環境となっている。	教職員アンケート 3. 41	A	「山・川・義士」を合い言葉に特色ある教育活動の推進に努める。特に総合的な学習の時間では、「わたしたちのまち赤穂」をテーマに地域から学ぶ姿勢を高めていく。また、時節に応じた掲示をしたり、クリップやテープを用いて児童の作品を効果的に掲示したりして校内環境の美化に努める。さらに、児童の安全を守るために、スクールガードリーダーと連携しながら、「危機管理マニュアル」を随時見直し整備する。
	項目 指標 特色ある教育活動の推進に努めているか。 雄鷹台山・加里屋川・赤穂義士・特別クラブ・学校茶道	教職員アンケート 3. 29		
	項目 指標 実効ある危機対応マニュアルを策定し、危機管理体制が構築されているか。 危機対応マニュアルにより、定期的に対応訓練を行う。	教職員アンケート 3. 82		
生徒指導 (非行等防止)	項目 指標 児童の内面理解に基づく指導に努めているか。 人間的なふれあい、よさが認められ、いきいきとした学校生活をおくる。	教職員アンケート 3. 88	A	可能な限り児童に関わることを基本として、個別指導や集団指導に際しては、児童に開発的指導・予防的指導・課題解決的指導を行うことにより、「自己指導能力」の育成を図る。教職員のカウンセリングマインド研修も継続して進めていく。
	項目 指標 好ましい人間関係、児童の心の居場所づくりに努めているか。 いじめ、不登校問題、非行問題への迅速な対応ができていく。	教職員アンケート 3. 94		
人権教育	項目 指標 教育活動全体を通じ命や人権を大切にすることを育てているか。 自他の命や人権を大切にし、お互いを思いやる心が育つ。	教職員アンケート 3. 94	A	人権教育は、赤穂小学校の全ての教育活動の中で実施すべきものである。教科指導において児童の学習を保障し、学級経営・生徒指導において、児童の自尊感情を高める中で、他者とかかわり合い「思いやりの心」を育てる。
	項目 指標 すべての教育活動の中で、人権教育が組織的・計画的に推進されているか。 教師が人権感覚を高め、校内研修の計画的な実施を行う。	教職員アンケート 3. 85		
道徳教育	項目 指標 全教育活動の中で、道徳性の育成に努めているか。 体験を生かした学習に児童は意欲的に取り組んでいる。	教職員アンケート 3. 80	A	いじめのない学校づくりの一翼を担うのは、道徳教育である。秩序ある全校集会、各教科での授業、休み時間、清掃活動(無言清掃)などで道徳教育を進めていく。その中核となる道徳の時間では、心のノートや兵庫版道徳教育副読本等を活用しながら、自らの生き方に迫るような授業を展開していく。
	項目 指標 道徳の授業時数を確保し指導法の工夫や研究に努めているか。 カリキュラムの充実と授業改善、道徳資料や心のノートの活用。	教職員アンケート 3. 30		
特別支援教育	項目 指標 支援を要する児童へのかかわりは適切にしているか。 指導計画を作成し、適切な教育的支援を進める。	教職員アンケート 3. 90	A	特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担任を中心に、全教職員で共感的理解を必要とする児童にかかわっていく。そこでは「ユニバーサルデザイン」の視点を持ち、「学びの共同体」による学習形態を取り入れ、学習や生活を進めていく。そこでは、児童がかかわり合い、学び合い、認め合いながら学校生活を進めるようにする。そのことが共感的理解を必要とする児童だけでなく、学級全体の向上に資する。また、関係諸機関との連携を深め特別支援教育を推進する。
	項目 指標 保護者、関係諸機関との連携を図っているか。 関係諸機関での教育相談、保護者との連携・協力による適切な支援	教職員アンケート 3. 75		

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	教職員の校内美化への意識向上と共に、児童の清掃活動(無言清掃)の充実により、校内環境の整備と美化に努める。学校行事等、特色ある教育活動について、各教科・総合的な学習の時間を通して充実していくことを、今後も「学校だより」や「ホームページ」等を活用した情報発信を随時継続していく。不審者対応研修等、外部機関との連携を取り、より正確な対応の仕方を訓練するよう計画的に取り組むようにする。
◎	◎	生徒指導が、教育課程の内外において一人一人の児童の健全な成長を促し、児童自らの自己実現を図っていくための「自己指導能力の育成」を目指すものであるという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、本校の教育活動全体を通じ、その一層の充実を図っていくことが必要である。そのためには、研究推進・生活指導委員会において、教職員が児童に関わる方法について研修を図る必要がある。
◎	◎	人権教育推進に当たって、従来型の講義・講演形態のものではなく、[人権教育の指導のあり方 第三次とりまとめ]が提唱する「協力的、参加的、体験的な学習」を適切に指導する体制を確立することが大切である。参加的・体験的研修形態が十分に取り入れることにより、教師の力量を育みながら「赤穂市人権教育推進上の基本事項」を充実したものにす。
◎	◎	児童の豊かな人間性は、「学校」だけではなく、「家庭」や「地域社会」を通じてはぐくまれる。道徳教育の充実には、保護者と学校・地域の連携が不可欠であり、学校・家庭・地域の全てにおいて「あいさつなどの基本的な生活習慣」、「人間としてしてはならないことをしないこと」、「集団や社会のきまりを守ること」、を児童の心身に付けさせていくことを推進する。
◎	◎	特別支援教育は、障がいのある児童の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものであることを教職員に認識させることが大切である。また、特別支援教育は、障がいのある児童への教育にとどまらず、障がいの有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、今後とも充実させる必要が本校にもある。そのため、「授業におけるユニバーサルデザイン」や「学びの共同体」の一人一人を大切にす教育を学校全体で取り組むようにする。

3 自己評価結果 (A~D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

観点 (重点目標)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料	達成状況	改善の方策
	項目	指標			
福祉教育	項目	高齢者や障がいのある人などへの理解を深めているか。	教職員アンケート 3. 95	A	各学年において、教科や総合的な学習の時間の中で、系統的にアイマスク体験・点字体験・車いす体験・ユニバーサルデザイン体験等の学習に取り組み、人としてのやさしさを持てるようにする。
	指標	体験学習など多様な学習方法。関係機関との連携。			
環境教育	項目	身近な環境から問題に目を向け取り組んでいるか。	教職員アンケート 3. 90	A	各学年の国語科・社会科・理科・総合的な学習の時間で、環境について学ばせる。上水道や下水処理場、衛生センターの見学、雄鷹台山や千種川・加里屋川の学習を通して、生物の多様性や地域の環境保全についての学習を進める。そして、ゴミ減量、省エネ、リサイクル活動の計画的な実践を図る。
	指標	ゴミ減量・省エネ・リサイクル活動の実践化、環境体験活動の実施			
国際理解教育	項目	他国の歴史・文化について理解を深めているか。	教職員アンケート 3. 30	A	小中の連携やALTとの協力指導の充実を図る等、校内研修を計画的に推進する。また、国際理解教育を外国語活動の時間だけにとどめることなく、各教科で外国に関することを学んだり、触れたりすることによって深まるよう指導していく。
	指標	国際交流活動・ALTとの交流・自国の伝統文化			
情報教育	項目	外国語活動に積極的に取り組んでいるか。	教職員アンケート 3. 30	A	情報機器活用について校内研修を行い、教師の指導力を高めることによって、児童のコンピュータを扱うスキルを高めるとともに、探求的な学習を進めるための情報活用能力を高めるようにする。
	指標	ゲームや歌や会話などを楽しみながら学習する。			
健康教育	項目	コンピュータ等の情報機器の積極的な活用を進めているか。	教職員アンケート 3. 45	A	体育科の保健の授業や健康教育の機会があるごとに、適時性をもって児童への指導を行っていく。うがい・手洗いなど基本となることの徹底を図りたい。さらに、「早寝・早起き・朝ご飯」運動の保護者への啓発を図る。
	指標	学校保健の充実と児童の健康に対する意識の向上に努めているか。 食育、正しい性教育、禁煙教育、外遊びの奨励			
防災教育	項目	防災教育に係る指導力・実践力の向上を図っているか。	教職員アンケート 3. 95	A	地震・火災・津波等の避難訓練(年3回)を行うことによって、本校「災害対応マニュアル」を継続的に見直していく。また、防災教育副読本「明日に生きる」を積極的に活用して、児童が命を大切にす、生き抜く力を身につけさせる。本校の県教委「学校震災支援チーム EARTH」所属の教員を中核にして防災教育を前進させる。
	指標	防災訓練や心肺蘇生法の研修により、意識と技術を高める。			

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	福祉教育は、児童の発達段階、本校の実態や地域の特性を生かし、赤穂小学校におけるすべての教育活動を通して、意図的、計画的に進めなければならない。各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動などは、それぞれ固有の目標をもっているが、それぞれが、児童の生活と結びつき、児童の生活の中に生かされ、生きて働くものとなるように、それらの活動が統合した実践を行う。体験学習、つつじ荘の施設訪問といった取組みを行うだけでなく、様々な教育活動につながるよう、相互に補い、組み合わせるようにする。
◎	◎	現在、温暖化や自然破壊など地球環境の悪化が深刻化し、環境問題への対応が人類の生存と繁栄にとって緊急かつ重要な課題となっている。雄鷹台山や千種川・加里屋川など豊かな自然環境を守り、私達の子孫に引き継いでいくためには、環境への負荷が少なく持続可能な社会を構築することが大切であることを教職員や児童が理解する必要がある。そのためには、児童が様々な機会を通じて環境問題について学習し、自主的・積極的に環境保全活動に取り組んでいくことが重要である。
◎	○	国際理解教育は、各教科、道徳、特別活動等のいずれを問わず推進されるべきものであり、この教育(国際理解教育)を実りのあるものにするためには、単に知識理解にとどめることなく、体験的な学習や課題学習などをふんだんに取り入れて、児童の実践的な態度や資質、能力を育成していく必要がある。指導の在り方としては、国際理解教育が総合的な教育活動であることを踏まえて、「総合的な学習の時間」を活用した取組も行う。
◎	○	情報教育とは、各教科・領域において児童の情報活用能力の育成を図るものである。本校では「探求的な学習」を行うことによって、課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力を育成し、情報活用の実践力向上を図る。
◎	◎	健康教育は、児童に対して、現在はもちろん、将来のために、健康のために必要な習慣、態度及び知識を得させるための訓練と教授がなされなければならない。この健康教育を各教科・領域で徹底することによって、児童はよりよい健康な生活を営むことができるようにする。
◎	○	国語科・社会科・理科・総合的な学習の時間・道徳の時間・特別活動等で、新副読本「明日に生きる」等を活用して、阪神・淡路大震災の教訓を語り継ぎ、自然災害から自らの生命を守る能力や共生の心を育む。また、近年の津波、台風の被害等を踏まえ、避難訓練を実施する必要がある。その際、本校に所属する震災・学校支援チーム(EARTH)を活用するなどの工夫を継続して行う。さらに、校内の災害時役割分担等について確立し、防災訓練等の機会を活用し、避難所運営に関する災害対応マニュアルの活用を図る。

3 自己評価結果 (A~D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (重点目標)	評価項目 (学校・教師の取組) 評価指標 および 目標値 (期待される姿)	評価資料	達成状況	改善の方策	
家庭・地域との連携	項目 指標	家庭や地域への情報発信を十分に行っているか。 オープンスクール, 各種会合, 各種通信, HP等による情報発信	教職員アンケート 3. 45	A	学校の教育活動や児童の様子, 各種行事等について, 随時HPを更新したり, メール配信や各種通信を積極的に発信したりする。さらに, オープンスクールや参観日には, 保護者の積極的な参加を呼びかけることによって, 学校教育への連携を図る。
	項目 指標	地域人材や地域教材の活用に努めているか。 自然体験活動や社会体験活動など, 多様な学びができる。	教職員アンケート 3. 90		
	項目 指標	家庭や地域との連携・協力は図られているか。 オープンスクール等への参画や早寝・早起き・朝ごはんの推進	教職員アンケート 3. 75		
資質・指導力の向上 研修の充実	項目 指標	実践的指導力の向上に努めているか。 授業公開, 自主研修, 得意分野づくりに励んでいる。	教職員アンケート 3. 89	A	文部科学省, 県教育委員会, 市教育委員会の通知・通達, 成果物などを活用した「本義・真義」の資質向上の研修を実施する。研究推進を中心に学習指導要領に基づいた「指導と評価の一体化」を進める中で, 基礎基本の定着や問題解決的な学習の推進による探求的な学習を推進することができる教員の育成を図る。このことが「第三者委員会提言」の「分かる授業」が進められる教職員の資質につながる。
	項目 指標	教育公務員としての使命感・倫理観の自覚ができているか。 服務規律を点検し, 心ふれあう職場づくりに努めている。	教職員アンケート 3. 95		
いじめ対応	項目 指標	重点行動計画に基づいて実践しているか。 児童の居場所づくりや多面的理解に努めている。	教職員アンケート 4. 00	A	研究推進・生徒指導の研修会において, 県教委「いじめ対応マニュアル」「第三者委員会提言」に基づいて, ワークショップ形式の研修会を実施する。また, 生徒指導上の留意点として, 児童同士の問題が起こりやすい休み時間に, 教室・運動場の児童の様子を常に確認していく。また, 問題が起こったときには速やかに対応する。さらに, 「第三者委員会提言」にあるように「分かる授業」を行うことによって, 子どもの居場所づくりを図る。

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	保護者や地域とのコミュニケーションに努め, 学校の必要とすることを明らかにし, 地域諸団体や保護者に積極的に働きかける。HPや各種だよりを活用し, より多くの情報を発信するよう引き続き取り組む。家庭学習を含め, ノート指導や学習の様子等は, 通信等を活用しながら今後とも発信していく。
◎	◎	資質向上に努める実践的指導力の向上のため, 赤穂小学校では以下の視点で取り組む必要がある。①個性を尊重した指導。児童の意識や行動の変化を的確に把握し, カウンセリングマインドをもって個性を尊重した指導ができるよう指導力の向上を図る。②魅力ある授業の展開。積極的に授業を公開し, 相互に研究を深め, 教育効果が一層上がるよう絶えず指導方法の工夫・改善を図る。③指導技術の伝承。学校全体で若手教職員の育成に努める。その際, 初任者研修や校内研修をはじめ, 日々の教育活動や保護者・地域との関わりの中で, ベテラン教職員の豊富な知識や経験を伝えられるよう工夫する。以上の方法によって, やる気をもって, 主体的に教職員としての専門性を高めていく。
◎	◎	本校ではいじめ0を目指して以下のことに取り組む必要がある。①生徒指導体制の構築。校長のリーダーシップのもと, 学校の生徒指導方針に基づき, 全ての教職員が共通理解を図り, 生徒指導体制を構築する。②集団生活を生かした指導。集団生活を通して, 自他の理解を深め, それぞれの良さを発揮させながら豊かな人間性を育む。また, いじめ等に対しては, 児童自身が問題を解決していこうとする自浄作用をもった集団づくりに努める。③いじめ問題への対応。いじめの問題に対しては, 「人として決して許されない」との毅然とした態度で指導する。また, 「いじめはどの子どもにも, どの学校にも起こり得る」という認識のもと, 「いじめ対応マニュアル」を踏まえ, 未然防止, 早期発見に努め, 早期対応により解消を図るようにする。

自己評価における特記事項

評価資料の数値は, 評価平均点を示しており, 下記の点数で自己点検を行い, 教職員数で平均している。  
4:達成した 3:ほぼ達成した 2:あまり達成できなかった 1:達成できなかった

職務が異なることから, 評価項目がすべてあてはまるとは限らない。

達成状況で, 評定点数が「3. 2以上」をA 「2. 8以上3. 2未満」をB 「2. 8未満」をCとしている。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

教職員のさらなる資質向上に向けた研修

教職員の協働的・組織的な学校運営の向上

あいさつ運動の推進, テレビ・ゲームの時間の削減, や家庭学習や読書時間, 睡眠時間を増加し充実させるための学校, 家庭, 地域の連携強化

学校行事等, 場に応じた児童の望ましい態度の育成